

富山県氷見市の事例

大阪府八尾保健所柏原支所 松下 彰宏

自治体の概要	人口 58,786人，保健婦が積極的に時間外も働き，ボランティアを育成してきた（健康づくりボランティア 700人）	
— 押 し の 事 業	事業名	子どもの健康づくり対策連絡会議
	事業の目的	子どもの健康づくりを保健，福祉，教育等の関係者がともに考える
	対象者	保健婦，保育士，
	事業の概要	研修会と連絡会を通して，子供たちの健康実態の共通理解と連携した効果的な施策の実施について協議
	事業の開始時期	平成9年度
	事業の実施に至ったきっかけ（事業の開始の背景）	母子保健計画の専門部会「生涯にわたって健康に過ごせる基礎づくり部会」を継続することになった
	実施についての職場内部の合意形成	母子保健計画策定時に合意
	予算，人的体制補助金の有無と種類	研修会開催のための予算（講師謝礼） 富山県保健センター連合会より助成金 人的には会議，研修会の準備は保健センターが担当
	対象者の把握及び選定方法（ルーチンワークとの関連）	研修会のメンバーは母子保健計画専門部会メンバーでスタートしたが，流動的に必要に応じて変更する
	関係機関への協力要請（担当者，手段，協力要請の手順）	関係機関の長を通じて，依頼。母子保健計画策定時より継続しているので，特に問題はなかった。
	事業の実施要領づくりに参画した人	保健センター職員
	実施できた促進要因	メンバー間の共通理解が得られ，問題意識の共有化が図られていた。
	阻害要因とその克服	会議のメンバーが各団体，職場からの推薦であり，1年ごとに変わるのので，変わる度に意識の共有化を一からやり直すので，ステップアップしにくい。
	サービスの受け手の感想	今のところ住民にはPRしていないので，不明
	担当者の感想	会議の意義を理解してくれる他分野のメンバー，ボランティア（健康づくりボランティア）が増えた。また，この会議を通じ，連携が深まったことで，他の事業も効果的に実施できるようになった。
	取り組みについてのPR	平成11年度に関係者研修会を開催
事業効果の客観的な評価指標	なし	
反響や波及効果	メンバー以外にも理解を示す人が増えてきた	
今後の課題	将来は関係機関が連携して活動目標を決めたり，活動計画を立てられる段階へと発展させたい	
ルーチンワーク	各事業の目的をスタッフで確認しているか	職場での打ち合わせ会で確認している
	モニタリングとして位置付けているか	はい
	事業委託の有無	なし

	直営で実施するメリットを發揮できているか	は い					
	ルーチンワークで対応しきれない対象者を把握しているか	必要な時には保育士へ指導を行ったり，同伴訪問を行っている。保健所ともつながりができた。					
計画の進行管理	担当課，担当係内における進行管理の状況	担当係内で進行状況のチェックや実施方法の修正を行っている					
	進行管理組織の構成	健康づくり推進協議会（15名）					
	進行管理組織に下部組織があるか	子供の健康づくり対策連絡会議 子育て支援関係者連絡会 母子保健医療関係者会議					
	関係機関の取り組みについての情報	いいえ					
	評価指標についての論議が行われているか？	いいえ					
母子保健事業評価	評価指標の決定プロセス	評価指標の設定はない（老人保健福祉計画で数値目標に良くない印象を持ったので...）					
	評価指標は関係者により認知されているか	評価指標の設定はない					
	評価のための情報収集	評価指標の設定はない					
	評価結果を住民や関係者に還元しているか	評価指標の設定はない					
マンパワー	マンパワーの変化		H 7	H 8	H 9	H10	H11
		保健婦	9	11	13	13	13
		栄養士	1	1	1	1	1
	マンパワー増の決め手	母子保健の委譲，介護保険，老人保健福祉計画					
	保健所との人事交流	な し					
	自治体内の専門職の異動	あ り					
予 算	予算の変化（印象）	不 変					
	予算増加の決め手	不 変					
	評価指標の有効性	評価指標の設定はない 具体的な解決策を記載したことが有効では？					
住民の主体性	主体性が向上したか	向上した					
	主体性向上を示す具体例	健康づくりボランティアの活動が自主的になり，具体的な解決策を実施していく上で，自分たちでどんな方法が効果的かを考えながら実施している。					
	主体性を引き出すために有効だった取り組み例	課題を設定し，ボランティア団体内で検討してもらい自分たちが考えたことが実施に結びつく喜びを感じられるように配慮している					
計画を推進するうえでの困難	関係機関の長の理解を得るのが大変						
計画の見直しその阻害要因	目標が実施可能レベルな設定なので，阻害要因はない						
保健所への期待	子供の健康状況についての調査・研究 関係機関の長レベルの会議での調整 市町村間の情報交換の場の設定 事業の実施における助言						